

小児科に関連する雑誌について

吉村文秀

1. はじめに

Textbook of Pediatrics (NELSON) によれば、「小児科学 Pediatrics とは、乳幼児期、小児期、思春期の子供たちの健康について、また彼らの発育、発達についての学問であり、彼らが完全に成人になれるよう支援するためのものである」と定義付けられています。つまり、小児科が最も内科と異なる部分は、子供には発育があり、発達があるという点です。もう一点、発育、発達という概念以外に小児科の大事な特徴は、各人の臓器ならびにその病変をみるだけでなく、一人の人間としてその子供全体をみななければならないという点です。つまり、その子供の疾患、発育発達のチェックはもちろん、家族構成のことや家族内トラブルのこと、学校でのこと、社会でのことなど、すべてを考慮して子供を支援していかなければいけないのです。当然関わるべき雑誌は多岐にわたります。いろいろな雑誌を読まなければなりません。

今回、「臨床に役立つ雑誌—小児科—」というテーマを与えられました。情報過多の時代ですから一人の人間が目を通すにはあまりにも雑誌の種類が多すぎます。一般的な国内雑誌や海外雑誌を紹介していてもいいのですが、今までの先生方のようなきっちりとした紹介でなく型破りな紹介、つまり、私がどう考えてその雑誌に目を通すかということ

述べていきたいと思います。したがってかなり独断と偏見に満ちた内容となることを先にお断りしておきます。

私が雑誌に目を通すには、大きく分けて2つの場合があります。読むべきテーマが決まっていなくて雑誌を読む場合（たとえば読書会で読むための論文を探す時や新着雑誌の内容をチェックする時など）と、学会発表や論文発表など、あるテーマが決まっており、それに関係する論文を調べるために雑誌を見る場合です。以下具体的に述べてみます。

2. 読むべきテーマが決まっていない場合

読むべきテーマが決まっていないときに見る雑誌は、それぞれの先生方によりかなり違っていると思います。私の場合、「読書会」の存在が大きなウエートを占めてきます。この読書会は週に一回、小児科で行われるもので、唯一のルールは読むべき論文は英文であることです。読書会で読むべき論文をピックアップする作業のために、暇を見つけては図書室に通い新着雑誌のチェックを行います。大体20~30件くらいの論文のうち、新しくて、面白くて、役に立って、みんなが知らないこと、ほかの先生が感心するような論文を探します。読書会というのは、その先生の学問的レベルが試される場であると思います。すなわち、どんなことにその先生が興味を持っているのか、どうしてその論文を選んだのか、その論文をどのようにみんなに説明するのか、

その論文をその先生はどう評価するのか、などなどその先生の力量が問われます。

具体的には、図書室の棚に沿ってタイトルをチェックしていきますが、最初に目を通すのが「NATURE」と「SCIENCE」です。この2つの基礎医学雑誌は、一番最先端の自然科学分野の成果がつかめる重要な雑誌だと思います。ここ1~2年は AIDS についての新しい発見が報告されてきています。AIDS ウイルスが人の細胞に進入するときの機構について、またどういったタイプの遺伝子を持った人間がウイルスの侵入を防げるかなど、各週ごとに矢継ぎ早に発表されています。狂牛病の犯人であるプリオンについての論文も立て続けに発表されており、話題性と迅速性が求められるもっともホットな論文が多く見られます。また、2~3年前の血小板増殖因子の発表があった号では、同時に4つもの論文が掲載され、研究最先端の厳しさも窺い知ることができ興味深いです。1996年から、「NATURE」に日本語の要約がつくようになり、ますます読みやすくなってきています。医学の専門以外の論文はこれまで、それ相当の専門用語が必要で理解しづらく、読み飛ばすことが多かったのですが、最近では、日本語の要約をたよりに、ほかの自然科学領域の論文も面白く読むようになりました。「イランで発掘された数千年前の土器の中から、世界最古のぶどう酒が見つかった」とか、酒飲みの私としてはわくわくするではありませんか。

確かにこれらの雑誌は、基礎医学に重きを置いたもので、直接臨床に関係するような論文は数多くありませんが、病態の把握に必要な基礎知識が見受けられ、臨床論文の起点になると考えられます。ほかにも、「Cell」「Journal of Clinical Investigation」などがありますが、ほぼ、「NATURE」「SCIENCE」で基礎的でホットな知識の入手はカバーできると思います。

次に目を通す雑誌は、「New England Journal of Medicine」と「Lancet」の2つです。特に「New England Journal of Medicine」

は最高の臨床系の雑誌で、小児科における重要な論文が数多く掲載されています。この中の「REVIEW ARTICLE」は秀逸で、ここ数年の新しい内容がうまく要約、発表されており、すぐに臨床で役立つ内容が述べられています。たとえば、気管支喘息におけるテオフィリン製剤の使い方についてのガイドラインは、その後多くの日本の雑誌に掲載され引用されています。

そのあとで読む雑誌は、むしろ各部門に関係した雑誌などです。神経の分野では「Neurology」「Annals of Neurology」「Neurologic Clinics」を読みます。「Neurology」は神経の分野では、臨床的な内容も豊富で利用価値が高いと思います。「Neurologic Clinics」はちょうど雑誌と教科書の間的存在で、ある程度一般に認められたことで、かつ比較的新しい内容がテーマごとにまとめられていて、自分の探しているテーマと一致したときは便利に使えます。血液の分野では「Blood」「British Journal of Hematology」の2冊、免疫、アレルギーの分野では「Journal of Immunology」「Clinical and Experimental Immunology」「Clinical Immunology and Immunopathology」の3冊、癌、悪性腫瘍の分野では「Cancer」「Cancer Research」の2冊、内分泌の分野では「Endocrine Reviews」「Endocrinology」「Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism」の3冊です。

そして最後に小児科の一般雑誌に目を通します。実際は読むよりはタイトルチェックが主で、これぞという論文は、今までに述べられた雑誌に掲載されていることが多いようです。小児科一般分野の雑誌として「Journal of Pediatrics」と「Pediatrics」の2冊が重要です。ほかには「Archives of Disease in Childhood」「Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine」「Pediatric Clinics of North America」などの雑誌に目を通します。そのうち、「Pediatrics Clinics of North America」がなかなか旨くまとまって

作られており、本の扱っている内容がうまく探しているタイトルと同じであれば、実際の治療に即役立つことができます。この雑誌は季刊誌で教科書と雑誌のちょうど中間をねらった雑誌です。

以上、主に海外雑誌ばかりになりました。読書会のルールが英語であるという条件から当然そうならざるを得ませんが、新しく重要なことを論文にしようとする場合、日本の研究者でも、まず真っ先に海外雑誌に投稿を考えるはずで、したがって、海外雑誌に重点を置いて読むべきと思われます。

しかし、緊急で、ある疾患についてまとまった知識が必要なときや、あまり頭をわずらわさずに知識を詰め込みたいときなどは、母国語である日本語の雑誌も非常に便利です。各学会雑誌で小児科関連のものは「日本小児科学会雑誌」「日本小児アレルギー学会誌」「アレルギー」「脳と発達」「小児がん」「日本小児呼吸器疾患学会雑誌」「日本小児内分泌学会雑誌」などがあります。商業誌も「小児内科」「小児科臨床」「小児科診療」「小児科」など、それぞれ特集が組まれることもあり参考となります。ほかに日本語の雑誌で私が必ず目を通すのが「医学のあゆみ」で、基礎的なことから、割と簡潔にまとめてあり理解しやすく、興味を持たば先に述べたような雑誌に戻ってオリジナルを読んだりできますし、「医学のあゆみ」の“メディカル・トピックス”では、見落としていた最近の進歩の部分をチェックできて便利です。私が読書会で読むための論文のネタ探しにもかなり役に立っています。また、社会医学や航空医学など、ほかの雑誌に無い興味深い内容の記事も見受けられます。以上私がテーマを決めずに目を通す雑誌です。

大事なことは、足繁く図書室に通うことです。こまめに雑誌に目を通し、自分の診療に役立つ情報で新しいものをチェックしておきます。いざというときには関係する論文を思い出し、あの雑誌に review が掲載されてい

た、この疾患はあの雑誌に症例報告していた、などのように雑誌を使うことが大事だと思います。

3. 読むべきテーマが決まっている場合

読むべきテーマが決まっている場合に雑誌をみるということは、とりもなおさず文献検索をどう行うかということだと思われます。あらかじめ自分が探しているテーマの review を掲載している雑誌を覚えていれば、かなり簡単に問題は解決しますが、そうでない場合がほとんどだと思います。以前は人に頼って文献検索を行ってきましたが、最近では諸般の事情により、医者自身が文献検索を行わなければならないようになってきています。数年前までは、文献検索というと Index Medicus などの冊子体を使って検索することを意味しました。いわゆる手作業でしたが、コンピュータの発達に伴い電子化、つまりデータベースとして蓄積され、“オンライン”での有料情報提供が行われるようになりました。残念ながら、当初個人で利用するにはあまりにも金銭的な負担が大きく、業者に委託するしかありませんでした。1990年に入ってから情報は CD-ROM に蓄積されるようになり、手軽に時間を気にせず自分のコンピュータを使ったりして情報が手に入るようになりました。Index Medicus はともかく医学中央雑誌を使っての手作業での文献検索、私はいまだに苦手です。ですから、医学中央雑誌を使っての文献検索がコンピューター化され、CD-ROM 利用になってからは、ほっとしております。

時代はしかしまだまだ進んで変化するようです。インターネットの登場です。文献検索はどうもインターネット上で行われようとしています。データベースを CD-ROM に載せるかわりに、インターネットに接続したホストコンピュータの中のデータベースに入れてしまえば、世界各地からアクセス可能となります。以前はインターネットの料金も高く設定してありましたが、最近のブームのおかげで、

インターネットを導入するための経済的負担は驚くほど低くなりました。病院に導入する場合はもちろん、個人でも十分に支払いうる金額となっています。

インターネット上で一番使う頻度が高いと思われるデータベースが MEDLINE です。このデータベースは、アメリカの国立医学図書館(NLM)で刊行されている Index Medicus のデータベースで、インターネット上のいろいろな業者が提供しており、無料公開されているものもあります。しかしながら、1996年に入ってから、NLM がトラブルを起こしています。入力代行業者への賃金未払いで、入力拒否に陥っているのです。そのため、1996年2月以降、MEDLINE へのデータ入力は内部職員による入力のみで、およそ30%程度しか行われていません。インターネット上の情報はオンラインで入手できますので、インターネットを利用なさっておられる方は、アクセスして最新の情報を調べておかれたほうが賢明だと思います。いずれにせよ、現在は、まだインターネットがすべての病院に導入されているわけではありません。しばらくは CD-ROM 版の文献検索で目的の論文を手に入れるしかなさそうです。

4. おわりに

時代は不景気で、予算的な制約が大きく問題となってきています。一番簡単に予算削除の影響を受ける場所が図書室です。いろいろな知識を得て、その知識のもとで医者の方の技術と知識を高め、高度な医療を行えば、患者の信頼が厚くなり、ひいては病院の繁栄につながると思います。一時的に金銭的な危機を乗り越えても、図書室の充実がなければ徐々に医療レベルは後退し、優秀な医者は去ってゆき、病院は衰退せざるを得ないと思います。最も診療の拠り所となる図書室の存在意義と重要性を、病院の先生方自身が再確認すべき時ではないでしょうか。

独断と偏見に満ちた文章で申し訳ないですが、ここに述べたやり方は私個人の情報との付き合いかたで、かなり偏っているかもしれません。しかし、時代は変化します。その変化に対応できるよう、常に情報キャッチのためのアンテナをはり、時代の流れをつかむ努力が大切なように思います。与えられたテーマだけに縛られるのではなく、いろいろな雑誌から得た知識をもとに、自分の臨床での経験とミックスして、自分で新しい仮説をたて、新しい治療法を確立できるようなところまでできれば幸せかなと考える毎日です。

Journal Citation Reports(JCR)on CD-ROM --1995 Science Edition
Journal Rankings Sorted by Impact Factor
(Filtered by PEDIATRICS)

Rank	Journal Abbreviation	ISSN	1995 Total Cites	Impact Factor	Immed. Index	1995 Articles	Cited Half-Life
1	J PEDIATR	0022-3476	17130	2.859	0.468	378	9.0
2	PEDIATR RES	0031-3998	7592	2.857	0.366	276	6.4
3	PEDIATRICS	0031-4005	15364	2.710	0.574	366	8.6
4	PEDIATR INFECT DIS J	0891-3668	4041	1.819	0.294	289	4.7
5	ARCH DIS CHILD	0003-9888	8247	1.582	0.283	371	7.3
6	MED PEDIATR ONCOL	0098-1532	1299	1.543	0.214	126	5.0
7	PEDIATR PULM	8755-6863	1271	1.483	0.111	153	4.4
8	AM J DIS CHILD	0002-922X	6267	1.433		0	> 10.0
9	AM J PEDIAT HEMATOL	0192-8562	979	1.271		0	5.4
10	J PEDIATR GASTR NUTR	0277-2116	2015	1.243	0.133	128	5.9
11	CLIN PERINATOL	0095-5108	733	1.196	0.174	46	6.2
12	DEV MED CHILD NEUROL	0012-1622	2646	1.177	0.207	111	8.7
13	ARCH PEDIAT ADOL MED	1072-4710	263	1.087	0.241	199	1.3
14	PEDIATR NEUROL	0887-8994	877	1.078	0.073	123	4.5
15	EUR J PEDIATR	0340-6199	2731	1.073	0.210	238	6.2
16	NEUROPEDIATRICS	0174-304X	685	1.008	0.082	73	6.3
17	PEDIATR NEPHROL	0931-041X	1119	0.980	0.079	191	4.3
18	J CHILD NEUROL	0883-0738	637	0.924	0.161	124	4.4
19	J PEDIATR SURG	0022-3468	4836	0.911	0.064	406	7.3
20	J DEV BEHAV PEDIATR	0196-206X	667	0.858	0.138	58	5.9